

徒然草『あだし野の露消ゆるときなく』

人が永遠にこの世の限りまでこの

あだし野の露消ゆる時なく、鳥部山トリベヤマの煙立ち去らでのみ住み果

世に住み続ける習わし どんなにか物の情緒も

つる習ひならば、いかにものあはれもなからん。世は定めなきこ

すばらしい

そいみじけれ。

長生きする

命あるものを見るに、人ばかり久しきはなし。かげろふの夕べ

を待ち、夏の蝉の春秋を知らぬもあるぞかし。つくづくと一年を ひととせ

この上なくゆったりとしている。

暮すほどだにも、こよなうのどけしや。飽かず、惜しと思はば、千

年を過すとも、一夜の夢の心地こそせめ。住み果てぬ世にみにく

何になるでしょうか、

き姿を持ち得て、何かはせん。命長ければ恥多し。長くとも、四

見苦しくない

十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ。

その年齢

容貌（顔）

そのほど過ぎぬれば、かたちを恥づる心もなく、人に出で交ら

繁栄してゆく将来

はん事を思ひ、夕べの陽ひに子孫を愛して、さかゆく末を見んまで

命を期待し

ただただこの世の利益や欲望に執着する心だけ強く

の命をあらまし、ひたすら世を貪むさぼる心のみ深く、ものあはれも

知らずなりゆくなん、あさましき。

接続助詞

「ば・(と)・ど・とも・ども・が・に・を・て・して・で・つつ・ながら・もの・ものから・ものを・ものゆる」

◆あだし野 京都市右京区嵯峨、小倉山の麓の野。中古、火葬場があり、東山の鳥辺野(とりべの)と併称された。

◆鳥部山 京都市東山区今熊野の地名。阿彌陀ヶ峰の西側のふもとにある。古く、火葬場があり、墓地が多かった。鳥辺野。

「現代語訳」

あだし野の露は消えるときがなく、(また)鳥部山の煙が立ち去らないでいるように、(人が永遠にこの世の限りまで)この世に住み続ける習わしであるのならば、どんなに物の情緒というものが無いことでしょうか。この世は無常だからこそ素晴らしいのです。

命があるものを見るにつけても、人間ほど長生きするものはありません。かげろう(虫の名前)が(朝に生まれて)夕方を待たずに(死ぬこともあれば)、セミが(夏限りの命なので)春や秋を知らずに(死んでしまう)いることもあるのです。しみじみと一年を暮らすだけでさえも、この上なくゆつたりとしていることです。(にもかかわらず人生に)満足せず、命が惜しいと思うのであれば、(例え)千年を生きようとも、一晩の夢のようなはかない気持ちですらでしよう。いつまでも住み続けることのできないこの世で、醜い姿を待ち迎えて(老いて醜い姿になって)、それが何になるでしょうか、いや何にもなりません。命が長いと恥をかくことも多くなります。長くても四十歳に足りないくらいで死ぬのが、見苦しくないのでしよう。

その年齢を過ぎてしまうと、(自分の)容貌を恥じることもなく、人の前に出て付き合おうということも思い、夕日のような(残りわずかな)命の身で子や孫をかわいがり、(彼らが)繁栄してゆく将来を見届けるまでの命を期待し、ただただこの世の利益や欲望に執着する心だけ強く、物の情緒さもわからなくなっていくのは、まったく嘆かわしいことです。

あだし野	名詞	夕べ	名詞
の	格助詞	を	格助詞
露	名詞	待ち、	夕行四段活用・連用形
消ゆる	ヤ行下二段活用・連体形	夏	名詞
時	名詞	の	格助詞
なく、	形容詞・ク活用・連用形	蝉	名詞
鳥部山	名詞	の	格助詞
の	格助詞	春秋	名詞
煙	名詞	を	格助詞
立ち去ら	ラ行四段活用・未然形	知ら	ラ行四段活用・未然形
で	接続助詞	ぬ	打消の助動詞・連体形
のみ	副助詞	も	係助詞
住み果つる	夕行下二段活用・連体形	ある	ラ行変格活用・連体形
ならひ	名詞	ぞ	係助詞
なら	断定の助動詞・未然形	かし。	終助詞
ば、	接続助詞		
いかに	副詞	つくづくと	副詞
ものあはれ	名詞	一年	名詞
も	係助詞	を	格助詞
なから	形容詞・ク活用・未然形	暮らす	サ行四段活用・連体形
ん。	推量の助動詞・連体形	ほど	名詞
世	名詞	だに	副助詞
は	係助詞	も、	係助詞
定め	名詞	こよなう	形容詞・ク活用・連用形のウ音便
なき	形容詞・ク活用・連体形	のどけし	形容詞・シク活用・終止形
こそ	係助詞	や。	間投助詞
いみじけれ。	形容詞・シク活用・已然形	飽か	カ行四段活用・未然形
命	名詞	ず、	打消の助動詞・連用形
ある	ラ行変格活用・連体形	惜し	形容詞・シク活用・終止形
もの	名詞	と	格助詞
を	格助詞	思は	ハ行四段活用・未然形
見る	マ行上二段活用・連体形	ば、	接続助詞
に、	接続助詞	千年	名詞
人	名詞	を	格助詞
ばかり	副助詞	過ぐす	サ行四段活用・終止形
久しき	形容詞・シク活用・連体形	とも、	接続助詞
は	係助詞	一夜	名詞
なし。	形容詞・ク活用・終止形	の	格助詞
かげろふ	名詞	夢	名詞
の	格助詞	の	格助詞

心地	名詞	そ	代名詞	ひたすら	副詞
こそ	係助詞	の	格助詞	世	名詞
せ	サ行変格活用・未然形	ほど	名詞	を	格助詞
め。	推量の助動詞・已然形	過ぎ	ガ行上二段活用・連用形	むさぼる	ラ行四段活用・連体形
住み果て	夕行下二段活用・未然形	ぬれ	完了の助動詞・已然形	心	名詞
ぬ	打消の助動詞・連体形	ば、	接続助詞	のみ	副助詞
世	名詞	かたち	名詞	深く、	形容詞・ク活用・連用形
に、	格助詞	を	格助詞	形	
みにくき	形容詞・ク活用・連体形	恥づる	ラ行上二段活用・連体形	ものあはれ	名詞
姿	名詞	心	名詞	も	係助詞
を	格助詞	も	係助詞	知ら	ラ行四段活用・未然形
待ちえ	ア行下二段活用・連用形	なく、	係助詞	ず	打消の助動詞・連用形
て、	接続助詞	人	名詞	なりゆく	カ行四段活用・連体形
何	名詞	に	格助詞	なん、	係助詞
かは	係助詞	出で交じらは	ハ行四段活用・未然形	あさましき	形容詞・シク活用・連体形
せ	サ行変格活用・未然形	ん	婉曲の助動詞・連体形	こと	名詞
ん。	推量の助動詞・連体形	を	格助詞	を	格助詞
命	名詞	思ひ、	ハ行四段活用・連用形	夕べ	名詞
長けれ	形容詞・ク活用・已然形	の	格助詞	の	格助詞
ば	接続助詞	陽	名詞	に	格助詞
辱	名詞	に	格助詞	子孫	名詞
多し。	形容詞・ク活用・終止形	を	格助詞	を	格助詞
長く	形容詞・ク活用・連用形	愛し	サ行変格活用・連用形	て、	接続助詞
とも	接続助詞	て、	接続助詞	さかゆく	カ行四段活用・連体形
四十	名詞	末	名詞	を	格助詞
に	格助詞	見	マ行上一段活用・未然形	ん	婉曲の助動詞・連体形
足ら	ラ行四段活用・未然形	まで	名詞	の	格助詞
ぬ	打消の助動詞・連体形	命	名詞	を	格助詞
ほど	名詞	を	格助詞	あらまし、	サ行四段活用・連用形
にて	格助詞	の	格助詞		
死な	ナ行変格活用・未然形	命	名詞		
ん	推量の助動詞・連体形	を	格助詞		
こそ、	係助詞	を	格助詞		
目安かる	形容詞・ク活用・連体形	を	格助詞		
べけれ。	推量の助動詞・已然形				